

平素より医療・介護関係者の皆様におかれましては、若松在宅医療・介護連携支援センター（以下、当センター）の事業にご協力いただき、心より感謝申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

【若松区医師会会長 古賀雅之先生からのメッセージ】



若松在宅医療・介護連携支援センター（以下、センター）は、平成28年度に市の委託で若松区医師会館内に設置され、下戸、浦野の2名の職員を配置し、医療と介護を結びつける橋渡し役として活動しております。医師会内に設置、運営していますので、医療機関との良好なコネクションを生かし、情報提供、医療調整、連携支援を、丁寧に行うようにこころがけております。センターが主催する多職種連携研修会では、知識と技術の向上とともに、グループ討議を交え、顔の見える関係を深めていただくことを目指しております。今年度から全市で展開された「とびうめネット@きたきゅう」

の普及にも力を入れており、多くの方に登録をいただいております。

コロナ禍の折り、医療、介護に関わられる方々には大変にご苦労が多いことと存じますが、このような時期こそ連携が大切だと思います。今後とも、センターをお気軽にご利用いただき、地域の方が安心して暮らせるサービス提供にお役立てくださいますように、お願い申し上げます。

【医療介護従事者研修会を開催】

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、研修会の開催が昨年までのような形式では開催できずにいました。現場で抱えている問題はコロナ禍でも変わらないとの貴重な意見を受けつつも、当センターの発信によるオンライン研修を行うことができずにいたところ、小倉地区の連携支援センターより協賛開催の提案を受け、12月1日に若松区医師会館視聴覚室をサテライト会場として、医療介護従事者研修会をオンラインと会場とのハイブリット形式で開催することができました。



今回は小倉南区にある新北九州腎臓クリニック理事長兼院長である海津嘉蔵先生他、同クリニック専門職の方々に講師を迎え、「血液透析患者の実態と問題点～直面する医療、介護、生活および認知症などの問題を中心に～」というテーマでご講演頂きました。若松区では一昨年に田村内科クリニック院長の田村先生より「腎不全を見直そう！」というテーマで腎不全について講義をしていただきました。今回は前回に続く内容で、透析を理由に施設入所を断られるケースが問題となっている昨今、今後ますます需要が増えていく事を鑑み、再度腎不全について学び、生活や薬、食事や施設での留意点など、一步踏み込んだ内容の講演となりました。参加者からは「ひとつの疾患に対して色々な職種の方からの見解は参考になった」、「基礎知識や原理、実生活などの説明が分かり易くとても参考になった」等の声が聞かれ、大変好評でした。また Zoomによる研修についても「新型コロナで研修参加を迷う中、リモートでの参加はとても良かった」や「スライドが見やすく、研修会場よりも講義が聞きやすい」等の意見を多く頂きました。



まだまだ、新型コロナウイルス感染症の終息時期の目途が立たない状況にあります。今まで同様、相談業務を行いつつ、研修会や普及啓発活動は多くの方が安心して参加できるように形式等を柔軟に検討し、その時々状況に即した形で対応してまいります。今後とも宜しくお願いいたします。